

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103212		
法人名	有限会社 キョーシン福祉会		
事業所名	みずき苑		
所在地	熊本県熊本市龍田5丁目12-4		
自己評価作成日	平成24年2月23日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年3月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊肥本線の電車の音をすぐ側で聞くことができる民家改修型の家庭的なホームです。玄関を入ると、昔ながらの大きな柱時計が時を知らせています。家庭と出来るだけ同じ様な環境で、毎日を笑顔で楽しく、生き生きと生活して頂く為に、入居者との関わり方を考え、思いを受容・共感し、生活の中に満足感と安心感があるようにと考えています。全職員参加の勉強会では、テーマを決めての発表や研修の復講等目標達成に向けて、意見を言える環境・場所作りに努め、職員のスキルアップを目指しています。また、地域の行事に参加し、地域の理解を深め、地域の中で生活できる施設作りに職員一同心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者向け住宅の併設や民家改修型を特徴とするホームは、重度化・高齢化が進んだ中、家族や地域等の力を借りながら、理念の実践に全職員が奮闘している。レクリエーションや脳トレ等身体機能維持や認知症進行防止に取組み、苑便りや運営推進会議を活かした地域への啓発活動が定期的なボランティアの訪問や子ども会との相互交流につなげている。職員同士のチームワークも良く、入居者と気さくな会話をしながら和やかな雰囲気づくりにつとめている。昨年度の外部評価結果から見えてきた課題である「事故等の再発防止」にはヒヤリ・ハット事例をアセスメントし全職員での検討は安全な日常支援となり、「職員育成」にテーマをもとにした勉強会やチームワークの強化とし「癒しの空間作り」等、サービス向上への努力が入居者の穏やかな生活や笑顔ある生活としており、家庭的な温かいホームが形成されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方の人権を尊重したケアを基本とし、理念に沿った目標の具体化に努めている。 職員へ施設の考え方を啓発し、職員教育に努め、勉強会時に理念を唱和している。	運営方針「個人の尊重・受容と共感・自由の尊重」を基本に、ホーム理念を掲げ、掲示や勉強会での唱和により意識向上を図っている。職員の2ヶ月毎に掲げた目標はチームワークを強化させ、この一年の課題の達成に向けた努力の成果は家庭的な小規模ならではのホーム形成となって表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除当番・子供会の廃品回収・クリスマス会等に参加し相互交流に取り組んでいる。 みずき苑だよりの回覧、ボランティアの訪問などで交流を継続している。	子ども会との相互交流(クリスマス会や地蔵祭り)等、今年は外に向けた交流促進に取組み、地域への“苑便り”での啓発が敬老会への参加や定期的なボランティアの訪問に繋げている。地域の掃除当番や子供会の廃品回収への協力等地域の一員となるべく継続して取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へボランティア(折り紙・フラダンス)をお願いし、毎月1回来苑してもらい、入居者と触れ合うことで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、苑だよりとスライドを利用し活動報告をしている。 昨年度より、系列施設も参加し活性化を図っている。	定例化してきた運営推進会議は、議事内容を事前に案内し、スライドを使用して日常生活を報告している。外部評価の結果報告や地域との交流・防災対策等、課題に向け活発な意見交換や助言を運営に反映させている。また、包括支援センターの役割を知る機会となったり、行政へ向けた家族の意見の発信の場等として活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールを活用し、情報の共有に取り組んでいる。運営推進会議に出席していただき、助言をいただいた。	運営推進会議時に介護保険制度変更に向けた説明や防災対策でのアドバイス等を受け、包括支援センター職員や市担当者とのメール交換による情報収集やフォーラム等に参加している。また、生活保護担当者との協力した取り組みや認定更新代行等の書類を持ち届け、現状を発信する等協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を利用し、身体拘束廃止へ向け、職員の理解・浸透を図っている。また、朝礼時ミニカンファレンスを行い、職員への意識付けをしている。抑制拘束検討委員会を設置しており、月1回の会議・検討会を行っている。	“身体拘束その他の行動制限マニュアル”を整備し、認知症ケアや接遇の勉強会の中で再認識し、職員は、“指示・命令をしないこと”を目標に掲げ、身体的・精神的な拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回入居者1名に使用していた4点柵の話し合いと家族との検討会を開催していたが、見守りと声かけの徹底により全面解除している。	管理者は職員に、拘束されたときの本人の気持ちになって考えることや入居者視点でのケアに取り組むことを指導しており、職員の意識向上も全面解除の一つである。拘束の無いホームとしての理念や方針を掲げると更に職員への意識付けになるものと思われ、全員で検討されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会の場を設け、職員間での共通認識を図り、確認の場を設け統一を図っている。事業所内にパンフレットを置いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関・事業所内に権利擁護や成年後見制度のパンフレットを置き、職員・家族の方など、いつでも見れるようにしている。研修に参加し学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などで詳しく説明し、また改定時には同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し意見を反映できるようにしている。また、毎月開催している家族会で意見・要望を聞き、その都度反映している。	職員は入居者に寄り添い、コミュニケーションに取り組み、「ここが一番よか！」との声に大きな不満は無いと推察している。家族には訪問時の聞き取りの他、運営推進会議や、毎月の家族会を問題提起の場として行事報告や計画等共に話し合っている。家族は頻繁に訪問されており、職員との信頼関係により気軽に相談等も寄せられている。ホーム内外の苦情相談窓口を説明し、ホーム内に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝のミーティングや勉強会の時に現場の意見を聞き、代表者と協議し業務に活かせるよう努めている。また、連絡帳で職員全体に周知するようにしている。	管理者は日常のケアの中で職員との対話を心がけ、朝のミーティングや勉強会時を意見や要望を聞く機会としており、入居者ケアや環境整備、消耗品等全員で検討し、管理者は代表者と協議しホーム運営に反映させている。室内環境整備として各居室に湿温度計を設置し、暑さ対策の検討等職員の提案が随所に表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ケアマネージャーとの連携で、個々の状況を把握し、また、各研修会へ積極的に参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・ケアマネージャーとの連携で、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進、外部研修への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会・外部研修会への参加。グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換・情報収集に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察を細やかにしながら、どこに支援が必要かアセスメントを行い、常に笑顔で接し、『暖かな雰囲気の中でホッと出来る』居場所の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、アセスメントによりプラン作成し、同意を得ている。月1回の家族会時に面談し、また随時家族と電話で連絡を密に取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報(診療情報、サマリー含め)や、面談によりアセスメントを行い、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事としたい事に注目し、暮らしを共にする気持ちを大切にしている。入居者のこれまで生きてこられた人生を理解し、お互いに支え合い、共感できるような関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事(新年会・敬老会・クリスマス会など)や外出行事の折は、ご家族の参加をお願いし、本人と家族の触れ合う時間を作っている。面会時も心地よく過ごして頂く為に、雰囲気作り(挨拶も含め)や、情報交換をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友・近所・親戚の方々など歓迎し、お茶やお菓子を出し、楽しくおしゃべりが出来るよう支援している。お墓参り・外食・孫の結婚式など自由に外出されている。	家族・友人・親類の訪問やかかりつけ医の継続、家族の協力を得ながら墓参や結婚式の参列等馴染みの関係性の継続に取り組んでいる。また、初詣、神社参拝、八十八夜のお茶会、彼岸には家族からのおはぎの差し入れ等慣習等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格・個性を把握し、スムーズにコミュニケーションがとれる様に気配りしている。環境作りに配慮し、利用者の『居場所』を大切に考え支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、家族がいつでも相談出来るよう関係の継続に心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や、家族会時に本人・家族より希望や要望を伺い、その希望・要望に添えるよう支援を行っている。	日々のかかわりの中で、言葉や表情等からその思いを察知したり、意思疎通や発語困難な場合は、家族の訪問時や介護記録等の情報をもとに本人本位になるよう検討しプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、基本情報聴取やアセスメントを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況について、経過記録や担当スタッフとのモニタリング(3ヶ月に1回)により、現状の把握・確認に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、介護計画に対する担当スタッフのモニタリングにより、ケアの在り方について相談したり、家族会時に意向確認し、プランに反映させている。 排泄に関する事柄については、排泄チェック表を使用し共通認識をもとにケアを実践。	毎月の家族会訪問時に家族の意向や要望を把握し、ケアマネジャーによる毎月のモニタリングと、担当職員による3ヶ月毎のモニタリングにより目標の達成状況や満足度を把握している。アセスメントも6ヶ月毎に見直し、日常の観察結果で変更すべき点は朱書で追記している。退院時には家族と主治医を交えて話し合い、プランを見直す等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌に記入、毎朝カンファレンスを行いケアプランの修正。申し送りノートにより情報を共有している。記録の重要性について勉強会実施。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・訪問歯科の利用 ・ボランティアの導入(折り紙・フラダンスなど) ・月1回おやつ作りや外出予定(スーパー・喫茶店など) ・子供会との交流		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニへの買い物、病院受診、地域のタクシーを利用し、会話を楽しんでいる。月1回地域の折り紙・フラダンスのボランティアの先生の協力の下、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医確認。事業所のかかりつけ医院についても(月1回往診)説明し、家族の協力の下、希望に添うよう支援。	入居時にかかりつけ医の確認を行い、家族によるこれまでのかかりつけ医受診や協力医による月1回の往診支援が行なわれている。専門科受診については基本的に家族対応としているがホームでも柔軟に対応している。又、訪問歯科支援や、入浴前のバイタル、個別で午前10時、18時に測定し夜勤者へ申し送りされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気がきがあれば管理者・ケアマネに直ぐ連絡している。申送りノートで全職員に情報伝達をし確認の押印を徹底し健康管理をしている。毎朝のミーティング時、夜勤者から日勤者へ申し送りをし情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、必要な時情報提供を行っている。 ・退院時、事前に訪問し情報聴取し、かかりつけ医への情報提供、サマリーの依頼をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時主治医と家族との面談を設定し、治療方針や終末期ケアについて説明し同意を得る。プランにも取り上げケアの統一を図る。	看取りについて指針を作成し、本人・家族の意向を大切に、ホームに出来る支援や、家族の協力の必要性を伝えながらその都度家族の希望を細かく確認している。又、必要に応じ家族や主治医との面談を行っている。今年度、「ターミナル(末期)ケアの実践」について勉強会を実施している。	入居者の高齢化も進んでいることから、今後は家族の思いを少しずつ確認する機会や、新職員の採用も行なわれており、職員の状態に応じ、メンタル面にも配慮しながら継続した研修会の開催が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で、初期対応を行っている。緊急時対応の本を常備している。初期対応の訓練を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間自主訓練を年3回、消防署・自治会・家族会参加の合同訓練を実施。また本年度、火災通報装置を設置し、次年度はこの装置を使用した夜間訓練を予定している。	消防署立会いによる昼・夜を想定した訓練や自主訓練を行っている。運営推進会議の中で防災対策を話し合い、家族・地域委員の訓練への参加や心肺蘇生法・救急救命等の研修に参加している。日常的に安全チェック表により安全確認を行い有事に備えている。	次年度は火災通報装置を使用した夜間の訓練を行う予定である。立地条件から自然災害に対しては、日頃から対策を講じる必要があると思われる。備蓄の検討や避難経路等のシュミレーションを行っていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や個人情報保護について勉強し、言葉遣い・身だしなみなど、意識の統一を図っている。個人情報の保護・利用目的など家族に説明し、同意を得ている。	接遇や個人情報について勉強会を開催し、介護支援目標も入居者の尊厳に配慮した対応について具体的な文言で表わしている。食事時のテーブルには一人ひとりにおしぼりがセッティングされるなど身だしなみ支援や入居者に応じた語りかけ・誘導が行なわれている。又、玄関の面会簿はプライバシーに配慮した個別記入方法が取られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	仏壇のお茶・お供え物、趣味で作られた作品・生け花等希望に添い対応している。日頃より好みの湯呑を使って頂いている。判断し易い様な言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション・入浴など希望を聞き、状態に合わせて、自由に決めて頂いている。ゆったりとした時間が流れるよう利用者優先の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など季節・好みに合わせて応じ、入浴後の化粧水は個人の物を使って頂いている。整髪も2ヶ月に1回訪問して貰い、好みの髪型の要望にも応えられるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・下膳など、出来る範囲で手伝いをしてもらい、職員と一緒に食事をしている。誕生会や行事時には、バイキング料理を用意し、選択の機会を多く作っている。おやつを食べに外出に出かけ、好みのメニューを選んで頂いている。	肉・魚のバランスや毎回汁物を取り入れ作成された献立は入居者に好評である。調理に関わる方は限られているが、インゲンのスジ取りや下膳・干し柿作りの皮むき等できる事を一緒に行っている。嚥下状態に応じ、キザミ・あらキザミでの提供や、病状により摂取状況などを記入するノートを作成し、家族と連携した個別支援も行なわれている。行事食やバイキングメニュー、ファミリーレストランや外出先での食事をはじめ、併設施設に設けられた和室での初釜体験等も行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェックノートを作成し、状態に応じて支援をしている。朝・昼・晩・就寝前等こまめに水分補給をしている。高血圧の方には、塩分を控えめに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベル・状態に合わせ、口腔ケアの声掛け・支援をしている。訪問歯科を利用したり、馴染みの歯科へご家族が同行される等、個別に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方も、昼間はトイレやポータブルトイレで排泄することで、尿路感染予防に努めている。また排泄パターンを把握し、時間・しぐさ等様子を見て、声掛け・トイレ誘導を行っている。夜間も個別に支援している。	排泄チェック表(個別・週間集計表)を活用しながら、声かけ・誘導、継続した自立支援に努めている。夜間はポータブルやトイレでの排泄を安全や安眠に配慮しながら支援している。排泄用品も吸収率の具合によって使い分けが行なわれ、個々に応じた排泄支援に取り組む姿勢が、申し送りノートや会議録からも確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・食物繊維など多く取り入れ、散歩・体操など運動することで、自然排便出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、希望があれば入浴できるよう支援している。その日の状態に合わせて、清拭・足浴・シャワー浴など対応している。	毎日入浴の準備を行い、希望や心身の状況に応じ支援している。寒い季節は早い時間から脱衣所の温度にも気を配り、浴室内も日々の清掃に努める等、気持ち良く入浴を楽しめる配慮が窺える。拒否の方へは時間をずらしたり、翌日に変更する他、低刺激のボディシャンプー使用やシャワーチェア利用等、個々に応じ支援している。入浴できない時も清拭・足浴・シャワー浴を取り入れながら、冬場は全員湯たんぽを準備し、安眠支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩・体操・レクリエーションなどで、活動性を向上させていただき、体力が低下されている方には、昼間ベッドに臥床して頂く時間をケアプランにあげている。冬場は湯たんぽを使用し、気持ちよく睡眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを作成し、職員がいつでも見て、確認できるようにしている。毎食時、与薬確認の担当者を設け、ケアマネ（看護師）より職員への注意事項の説明も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知り、若い時の仕事・趣味など職員が把握し、アプローチをしている。生き生きと生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・家族と一緒に小旅行に出掛けることで季節感を味わって頂いている。天気の良い日には、テラスに出て、車椅子の方も散歩され、季節を感じて頂いている。	季節や天候の良い日は、デッキで日光浴やおやつ時間、体操を行ったり、併設デイサービスへ、手引き歩行で交流に出かけている。又、近隣を歩きながら畑作物を見たり、電車の往来を楽しめる公園への散歩は入居者の楽しみになっている。ドライブを兼ね町のコミュニティセンターやスーパーへ買い物に出かける他、バラ園見学や外食など家族の協力支援が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力・認知症の症状を見ながら、本人の希望と家族の意見を聞いて支援している。近くのコンビニに希望の物を買に行ったり、小額を財布に入れ管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、職員が電話を掛け対応している。また、レクリエーションで暑中見舞い・年賀状を作成し家族へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、湿度計・加湿器を使い対応している。高台に位置するので、朝日が昇るのを見る事が出来、共用部は光が入る。ソファや椅子など、それぞれの場所で自由に過ごせるように支援をしている。	眺めの良いリビング食堂には庭先に咲いた花が飾られ、ソファで横になったり、歌や会話の弾む寛げる空間である。廊下に飾られた入居者の作品(ペーパークラフト・折り紙など)は、来訪の家族にとっても楽しみとなっている。日当たりのよいデッキはお茶やイベントで食事を摂ったり、入居者と一緒にプランター栽培(小ネギやいちご等)が行なわれている。又、夏場は簾や打ち水で涼を取り入れたり、冬場も10時・3時の換気や湿度管理など季節に応じ入居者が居心地良く過ごせる環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で、居室の確認をされたり、利用者のADLに合わせ、テーブルの配置を考慮し、環境面を把握しつつ落ち着いた居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人・家族と相談し決めている。居室は、個々の希望に応じて馴染みの物を持ってきて頂いている。仏壇や家族の写真・小物など、安らげる空間になるよう努めている。	入居時に本人が落ち着かれる馴染みの品々の持ち込みを依頼している。それぞれの部屋には愛着のある家具や椅子等が部屋の広さや作りに応じ、本人が使いやすい場所に設置されている。テレビやラジオを持ち込み自由に楽しまれる方もおられる。家具などが古くなり買い替えが必要になった場合も、使いやすいものを家族と相談しながら決定している。職員は日々の掃除や居室の温度計を確認しながら室温管理や、習字・塗り絵などのそれぞれの作品の掲示を行い、入居者が寛げる居室となるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・カレンダー・家族の写真を用い活かしている。トイレの場所が分かるように場所表示をして工夫している。歩行の方、車椅子の方に考慮し安全を図っている。		